

卒試外科復元

2006.10.12 15:00 ~ 17:00 臨床第一講堂

【肝胆】【移植】の部分は復元が不十分です。

1. 【食道】

- (ア) 食道癌手術の術後消化管の再建経路と再建に用いる臓器を書け。
- (イ) 食道疾患の良性疾患のうちで手術適応があるものを列挙し、それぞれについて知るところを書け。

2. 【胃】

- (ア) 次のうちで、胃での発癌に関与するものを2つ選べ。
HB ウイルス、HC ウイルス、EB ウイルス、緑膿菌、黄色ブドウ球菌、ヘリコバクターピロリ
- (イ) 胃幽門側切除術の際に離断する必要がある動脈を次から4つ選べ。
総肝動脈、腹腔動脈、固有肝動脈、胃十二指腸動脈、後胃動脈、左胃動脈、右胃動脈、左胃大網動脈、右胃大網動脈、短胃動脈
- (ウ) 胃全摘(脾温存)手術の際に離断する必要がある動脈を、全問に加えて2つ選べ。
(選択肢は全問と同じ)
- (エ) 胃癌とGISTの治療法について、それぞれ知るところを書け。

3. 【腸】直腸癌の手術術式を列挙し、それぞれについて説明せよ。

4. 【肝胆】空欄補充

- (ア) 原発性肝癌の95%が、3%がである。の65%がを、20%がを背景としている。肝切除前にはの評価が重要である。では腫瘍マーカーはとが高値を示す。は経皮エタノール注入療法、マイクロ波凝固療法のほか、肝動脈支配で造影CT上でhypervascularであることからを行うこともある。肝臓の機能的な左右葉を分ける、胆嚢症から下大静脈・肝静脈合流部を結ぶ線をという。肝鎌状間膜は索状の構造物であるをその下縁に入れている。(復元不完全)
- (イ) 閉塞性黄疸を来す疾患には、悪性のものとしてはが、良性のものとしてはなどがある。閉塞性黄疸の際には、血液検査ではビリルビンの他に胆道系酵素のとの高値を見て取れる。胆管主幹部の閉塞による閉塞性黄疸の場合は超音波検査によってを見て取れる。下部胆管閉塞による胆嚢鬱滞が起こった結果、胆嚢腫大から無痛性の胆嚢触知ができることを徴候という。総胆管結石は、腹腔鏡的に腹腔鏡下胆嚢摘出術、また内視鏡的にを行う。治療する場合は胆管結石の嵌頓などによって高熱・黄疸・DIC・ショックなどを呈するものをという。(あと2問、思い出せません)

5. 【膵】膵頭部癌、膵尾部癌のそれぞれについて、標準的な根治手術の名称とその手術で切除する器官・脈管を列挙せよ。

6. 【移植】選択問題×5

(ア) 次の疾患のうちで肝移植手術の適応のない疾患を選べ。

胆管閉塞性疾患

原発性胆管腫瘍

ライ症候群

C型肝炎

アラジール症候群

(イ) 次のうちで肝移植手術が禁忌となるものを選べ。

閉塞性黄疸

活動性肺炎を持つ患者

劇症肝炎？

(ウ) 肝移植レシピエントに行う手術・手技として正しいものを選べ。

腎摘出

左右門脈吻合術

上腸間膜動脈切除？

(エ) 移植後拒絶反応

(オ) 膵島移植について正しいものを選べ。

1型糖尿病には膵島移植の適応がある。

ドナーは通常は1人である。

移植膵頭は脾臓に注入する。

膵島のみの移植では倫理委員会による審議は必要ではない。

7. 【呼吸器】非小細胞肺癌の進行度に応じた治療方針の決定のために必要な検査、治療およびその治療成績について、知るところを書け。